

小牧市ごみ処理基本計画（案）に対するパブリックコメントに提出された意見等の概要及び提出された意見に対する市の考え方

No	ページ数	意見（原文）	意見に対する市の考え方
1	資料1 p20 資料2 p27 資料3 資料17	資料や記載事項を以下のようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小牧市ごみ処理基本計画（令和2年度～令和6年度）＝資料1</li> <li>・「小牧市ごみ処理基本計画（令和7年度～令和12年度）案＝資料2</li> <li>・「参考資料」案＝資料3</li> <li>・1人1日当たり家庭系ごみ排出量（資源除く）＝指標1</li> <li>・事業系ごみ排出量（資源除く）＝指標2</li> <li>・再資源化率＝指標3</li> <li>・1人1日当たり焼却量＝指標4</li> <li>・指標1の実績（1）＝エコル直接搬送分除く</li> <li>・指標1の実績（2）＝エコル直接搬送分含む</li> <li>・実績（1）の目標値＝資料1のp20 図2-5-1</li> <li>・実績（2）の目標値＝資料1のp24、資料2のp27 図2-10</li> </ul> <p>資料3－資料17の表2、9の数字＝図1のように、2018年度までは実績（1）で2019年度以降が実績（2）で良いでしょうか。</p>	お見込みのとおりです。
2	資料3 資料17 データ活用	国、愛知県、小牧市とも2020年度以降の削減の傾きに比べて、長期目標は抑え目です。何か理由はありますか。	国や県の目標設定の理由等については分かりかねます。 本市の1人1日当たり家庭系ごみ排出量(資源除く)は407g/人・日(令和6年度実績)であり、全国平均・愛知県平均いずれも475g/人・日(令和5年度実績)と比較しても、現状では相当程度少なくなっています。 これは、本市では各種リサイクル法に基づく資源化を適正に実施していることや近隣自治体と比較し剪定枝類や雑がみの資源化に早期に取り組んでいることが要因となっています。 今後はこれまで行ってきた施策の定着を図りつつ食品ロスなど生ごみ等の減量化を目指した実現可能な長期目標としております。
3		小牧市と鎌倉市の違い（学ぶ点）を把握し、今後の小牧市の施策に反映することを考えていれば、教えてください。	本計画（案）では市町村一般廃棄物処理システム評価支援システム[環境省]により選定した17の類似都市について施策分析を行い、必要に応じて計画に取り込みました。取り込んだ施策には、生ごみの資源化に関する検討等、鎌倉市と類似した施策も含まれており、また、鎌倉市の資源化量の多くを占めている剪定枝類や雑がみの資源化推進は本市においても既に実施している取組です。 本計画（案）では、食品ロスの削減や5R、サーキュラーエコノミー（循環経済）を推進していくこととしており、鎌倉市特有の施策を反映させることは想定しておりませんが、本市の既存の施策の定着を図りつつ、引き続き鎌倉市を含む他市の事例についても調査・研究をしていきたいと考えています。
4	資料2 p33 p34	サーキュラーエコノミーを目指す意味で再資源化の長期目標をもう少し野心的（挑戦的）な数値目標にしてもよいのでは。	本市では近隣自治体と比較し、剪定枝類や雑がみの資源化に早期から着手している結果、本市の再資源化率は37.6%(令和6年度実績)で、全国平均である19.5%(令和5年度実績)や愛知県内の自治体の平均22.0%(令和5年度実績)と比較しても高い水準です。今後はこれまで行ってきた施策の定着を図りつつサーキュラーエコノミーの推進や食品ロスなど生ごみ等の減量化を目指した実現可能な長期目標とし、引き続き再資源化率の向上についての取組・施策の検討を行ってまいります。
5	資料2 p33 p34	鎌倉市は、紙おむつ、生ごみの資源化で再資源化の大幅アップを目論んでいます。小牧市もこの項目を挙げられていますが、数値的な見込みはありますか。	定量的な目標設定は行っておりませんが、今後も生ごみの減量化を推進するとともに、生ごみや紙おむつ等の再資源化について先進的な取組の調査・研究を実施していく予定です。紙おむつの再資源化については、現在、国の支援により様々な自治体で実証実験を開始しており、それらの結果も踏まえて検討を進めていく予定です。

6		<p>総量維持+再資源化45%の場合、総量10%削減+再資源化40%の場合等のような試算をして、例えば総量削減や再資源化の各指標への影響度を想定してみると対策の重点が見えてくると思います。</p>	<p>ごみの減量化・再資源化の検討に当たっては、排出量の多い家庭系燃やすしかないごみ、事業系燃やすごみを対象とし、さらにそれぞれのごみの組成毎の分別等協力率<sup>*</sup>に着目して、今後、分別等協力率の向上の可能性が高いごみ組成からの減量化・再資源化を検討しております。</p> <p>本計画においては、家庭系燃やすしかないごみのごみ組成では、びん、缶、ペットボトル等は、現状で既に90%程度以上の分別等協力率となっているため、大幅な減量化・資源化は期待できません。一方、食品ロスの現状の分別等協力率は0%(測定不能なため)、古紙は53%、古布は68%であることから、今後さらなる減量化及び再資源化が期待できます。</p> <p>このように、本市におけるごみの発生特性に着目し、目標値の設定やそれに基づく取組・施策について検討を行っています。</p> <p>いただいた意見につきましては、今後の施策立案の参考とさせていただきます。</p> <p><sup>*</sup>分別等協力率：ステーション排出時等での市民のごみ組成毎の分別協力率や発生・排出抑制率の総称。</p>
7		<p>2035年度再資源化45%くらいは目指したい。</p>	<p>No6の回答と同様</p>